



阪神・淡路大震災20年展

2014年10月15日 水 - 12月28日 日

阪神・淡路大震災20年展

だまし絵Ⅱ

Visual DeceptionⅡ Into the Future

何度でもだまされたい！

伝説の「だまし絵」展が、再び兵庫に！！31万人超が鑑賞し、
入場者数歴代2番目の記録をもつ、あの「だまし絵」展が帰ってきた！！

展覧会概要

人の目をあざむくような美術作品、その系譜をたどった「だまし絵」展は、2009年に東京・名古屋・神戸で開催され、75万人を超える入場者を記録しました。今回、その続編として、「だまし絵Ⅱ」を開催します。

本展では、アルチンボルドらの古典的な作品を冒頭で展示しつつ、20世紀以降の現代的な表現を幅広く紹介します。現代の美術は、素材や技法、内容においても多様化し、そのなかで「だまし絵」的な表現も進化と変貌をとげています。現代のだまし絵的作品は、アーティストから私たちへの挑戦であり、問いかけでもあると言えるでしょう。

ダリ、マグリット、エッシャーら20世紀の巨匠から現在活躍中のアーティストまで、様々な仕掛けをもつ作品群を、家族そろってお楽しみください。

会期等

2014年10月15日(水)～12月28日(日)

休館日：月曜日 ※ただし、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)

は開館し、11月4日(火)、11月25日(火)休館

開館時間：午前10時～午後6時

※金・土曜日は夜間開館(午後8時まで)

※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 企画展示室

主催：兵庫県立美術館／産経新聞社／関西テレビ放送／神戸新聞社

後援：兵庫県／兵庫県教育委員会／神戸市／神戸市教育委員会／

サンケイスポーツ／夕刊フジ／サンケイリビング新聞社／

ラジオ大阪

協賛：一般財団法人 みなと銀行文化振興財団／大伸社

協力：スイス インターナショナル エアラインズ／日本貨物航空／

日本航空／ルフトハンザ カーゴ AG／ホテルオークラ神戸

プロローグ

古典的なだまし絵を紹介

1章 トロンプルイユ

本物そっくりの迫真的な表現を紹介

2章 シャドウ、シルエット&ミラーイメージ

影や鏡を利用した作品

3章 オプ・イリュージョン

錯覚を起こす図形イメージ

4章 アナモルフォーズ・メタモルフォーズ

ゆがんだ像、変容するイメージを扱った作品

油絵、版画、立体、写真、映像など現代の作品を中心に約80点を紹介。また、アルチンボルド、ダリ、マグリット、エッシャーら、だまし絵の巨匠の名品も展示。人の目をあざむくような美術作品を家族そろってお楽しみください。

観覧料

一般1,400(1,200)円 大学生1,000(800)円

高校生・65歳以上700(600)円 中学生以下無料

※()内は、前売および20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

(65歳以上を除く)

※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。

※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です。

(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

※主なチケット販売場所：公式サイト上のオンラインチケット、JTB各支店・総合提携店、コンビニエンスストア、ほか京阪神のプレイガイド

※コンビニ商品番号 前売券：0237856 当日券：0237857

ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス、

各店で販売。番号は全コンビニ共通。

※前売券は10月14日(火)まで販売します。会期中は販売しません。

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

展覧会構成

2009年に開催した「だまし絵」展は、美術の歴史における「イリュージョン」の効果に注目し、見る人の目をあざむくような技法に焦点を当てた作品の系譜を、古典的絵画から近代を経て現代美術にいたる歴史的な流れのなかで紹介する試みでした。その続編となる本展では、多岐にわたり「進化」していく現代美術の展開に重きを置き、古典的傑作を集めたプロローグに続き、現代の新しい「だまし絵」における挑戦を、視覚的詐術によるカテゴリーに分類して展覧していきます。

プロローグ

「だまし絵」とは文字通り「目をだます」絵の系譜です。人間の視覚に対する科学的探求が始まったルネサンス後期のヨーロッパでは、視覚の力に挑戦するような様々な作品が登場します。ある絵の中に別の像を潜ませるダブル・イメージの傑作、アルチンボルドの《司書》や、壁のくぼみの中に置かれた事物の影に至るまで克明に描写することで、つかの間^{へきが}にせよ、それが「本物」の事物であるという錯覚をおこさせるトロンプレイユの代表作、ピアースンの《鷹狩道具のある壁龕》—こうした古典的巨匠たちが技巧をつくした「だまし絵」の到達点を示す作例は、眼の先入観を打ち破り、観る者を仮象の世界の裏側へと誘っていきます。

1章 トロンプレイユ

「本物と見まごう」とは、古来より画家の優れた描写力への賞賛のことばですが、イメージが氾濫し、その在り方が驚くほど多様化する20世紀には、「リアリティ」に対する根本的な問いこそが、再び制作の大きな原動力となります。日常目にするモチーフを本物そっくり^{そっくり}に再現するカズ・オオシロは、巧妙に観る者の目を欺いた後に、その「真の姿」に気づかせるタネあかしも忘れません。床に無造作に置かれたアンプは表面だけが精巧に描かれたもので、後ろに回るとそれが木枠に貼られたキャンヴァスにすぎないという事実をさらけ出しています。名画の裏面を再現するというユニークなアイディアで観る者の眼を欺く、ヴィック・ムニーズの《「裏面」シリーズ》は、実物大ですべてを忠実に再現することで、まるで本物の絵画が後ろ向きに置かれているかのような錯覚を引き起こし、人々の先入観を打ち破ります。



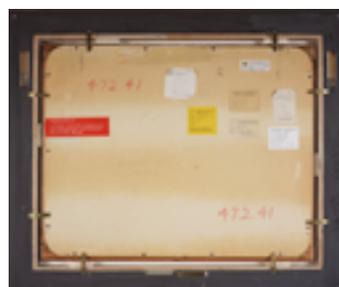
1. ジュゼッペ・アルチンボルド 《司書》
1566年頃 スコークロステル城（スウェーデン）
Photo: Samuel Uhrdin



2. クリストフェル・ピアースン 《鷹狩道具のある壁龕》
1660年代（推定） ワシントン・ナショナル・ギャラリー
Courtesy National Gallery of Art, Washington



3. カズ・オオシロ 《フェンダー・デラックス・リヴァーブ・アンプ2》
2009年 Courtesy of the Artist and Galerie Perrotin



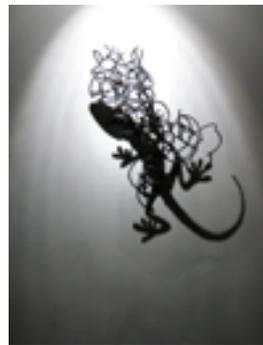
4. ヴィック・ムニーズ 《「裏面」シリーズ、星月夜》
2008年 作家蔵
©vikmuniz, courtesy Sikkema, Jenkins & Co.

2章 シャドウ、シルエット&ミラーイメージ

美術において「影」や「鏡」は、物体を本物らしく見せるためのいわば引き立て役として取り入れられ、虚構空間と現実世界を巧妙に結びつけるモチーフとして用いられてきました。20世紀後半になると、実体に付随するべきこれらのモチーフを主役に据え、実体から切り離すことで、不在を表現したり、虚像と実体の間の固定観念を打ち破る作品が生まれてきます。福田繁雄の《アンダーグラウンド・ピアノ》では、床に置かれた得体の知れない黒い物体が、鏡像の中ではじめて「正しいかたち」として浮かび上がってきます。一方、ラリー・ケーガンの《トカゲ》では、壁につけられたからみあった針金が、小動物のシルエットに見事に変貌を遂げています。



5. 福田繁雄 《アンダーグラウンド・ピアノ》
 1984年 広島市現代美術館



6. ラリー・ケーガン 《トカゲ》 2008年
 トニー&リンダ・ブルーム・コレクション
 ©Larry Kagan, courtesy of Hirschl & Adler Modern, New York

3章 オプ・イリュージョン

1960年代半ば、オプ・アートと総称される、幾何学的なかたちや色のシステムティックな配置によって錯視効果を引き起こす抽象絵画が注目を集めました。ヴィクトル・ヴァザルリはその代表的な作家の1人で、反復するパターンと色彩のグラデーションによって、脳に画面の上での凹凸を知覚させています。こうした視覚や脳に直接働きかけるイリュージョンへの高い関心は、イギリスのアーティスト、パトリック・ヒューズの作品にも顕著に見られます。「リバースペクティブ」(「リバース(反転)」と「パースペクティブ(遠近法)」の合成語)と呼ばれるシリーズは、描かれた情景の遠近と画面の物理的な凹凸とを逆転させることで、観る者が左右に動くにつれてイメージが動き出す(ように見える)という驚くべき仕掛けになっています。

7. パトリック・ヒューズ 《広重とヒューズ》
 2013年 作家蔵
 ©Patrick Hughes, courtesy Flowers Gallery, London / New York



4章 アナモルフォーズ・メタモルフォーズ

「遠近法の技法を「逆利用」してイメージを法則的に歪め、一定の視点から見ることで正像を浮かび上がらせるアナモルフォーズの手法。しかしフォト・ショップなどによりイメージの自在な変形が可能な現在においては、「正像」自体の意味が揺らぎだします。エヴァン・ペニーは、極端に引き伸ばしたり、傾斜させたりして歪めた人体を彫刻で制作し、それを現実空間の中に置くことで、我々がイメージの世界でしか起こりえないと思っている出来事を現実の世界に現出させてみせるのです。一方、距離や見方を変えることでひとつのイメージを別のイメージへと変貌させるのがメタモルフォーズの手法です。シュルレアリストの画家、マグリットの手にかかると、見慣れた個々の事象が、通常とは異なるやり方で結びつけられ、現実にはあり得ない情景が生み出されます。靴と足という似て非なるものを巧みに結びつけた《赤いモデル》では、類似性により両者の異質さを際立たせることで、あたかもイメージ自体が目の前で変容していくような錯覚が引き起こされます。ヴィック・ムニーズがおもちゃの兵隊を実際に並べて作り上げた自画像のインスタレーションを写真に撮った《自画像 悲しすぎて話せない バス・ヤン・アデルによる》は、ダブル・イメージの手法を用いて異なるふたつのイメージを巧みに結びつけることに成功しています。

本展覧会出品作家

クリストフェル・ピアソン
 コルネリス・ノルベルトウス・ヘイスプレヒツ
 ゲルト・ディットマース
 ドウエン・ハンソン
 チャック・クロース
 杉本博司
 ロン・ミュエック
 ヴィック・ムニーズ
 福田美蘭
 トーマス・デマンド
 トム・フリードマン
 カズ・オオシロ
 須田悦弘
 レアンドロ・エルリッヒ
 田中偉一郎
 ゲルハルト・リヒター
 福田繁雄
 ミケランジェロ・ピストレット
 高松次郎
 マルクス・レーツ
 ラリー・ケイガン
 マルコ・パニョーリ
 メアリー・テンブル
 ダニエル・ローズン

シーラ・フロイヤー
 ハンス・オプ・デ・ベーク
 ヴィクトル・ヴァザルリ
 ヘス・ラファエル・ソト
 カルロス・クルス＝ディエス
 ヤーコブ・アガム
 リチャード・アヌスキウィツ
 パトリック・ヒューズ
 アニッシュ・カプーア
 名和晃平
 マウリッツ・コルネリス・エッシャー
 ルネ・マグリット
 サルバドール・ダリ
 フィリップ・ハルスマン
 メレット・オッペンハイム
 デイヴィッド・ホックニー
 フーゴ・スーター
 エヴァン・ペニー
 伊藤高志
 トニー・アウスラー
 ロバート・ラザリーニ
 スティーヴ・バロン



8.エヴァン・ペニー
 《引き伸ばされた女 #2》
 2011年
 ©Evan Penny, courtesy Sperone Westwater,
 New York



9.ヴィック・ムニーズ
 《自画像 悲しすぎて話せない バス・ヤン・アデルによる》
 2003年 タグチ・アートコレクション ©vikmuniz

サルバドール・ダリ
 《海辺に出現した顔と果物鉢の幻影》
 の画像(チラシ裏面を参照)を提供できます。
 ご希望の方は、お問い合わせください。
 画像使用につきましては、別途、著作権
 使用承諾の申請・著作権使用料が必要
 となります。(p.7で参照ください)

10.サルバドール・ダリ
 《海辺に出現した顔と果物鉢の幻影》
 1938年 ワズワース・アテネウム美術館
 Photo SCALA, Florence 2014
 © Salvador Dali, Fundació Gala-Salvador Dali, JASPAR Tokyo, 2014 許諾番号

ルネ・マグリット 《赤いモデル》
 の画像(チラシ裏面を参照)を提供でき
 ます。
 ご希望の方は、お問い合わせください。
 画像使用につきましては、別途、著作権
 使用承諾の申請・著作権使用料が必要
 となります。(p.7で参照ください)

11.ルネ・マグリット 《赤いモデル》 1953年
 BNPパリバ・フォルティス銀行
 Photo: Serge Verheyewegen
 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 許諾番号

関連行事

記念講演会「だまし絵と錯視」

講師：北岡明佳氏（立命館大学文学部教授）

11月16日（日） 午後2時～（約90分）

ミュージアムホールにて 聴講無料（定員先着250名・要観覧券）

学芸員による解説会

10月25日（土）、11月8日（土）、11月29日（土）、12月13日（土）

午後4時～（約45分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着100名）

ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中毎週日曜日 午前11時～（約15分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着100名）

こどものイベント「トリック写真を撮りっこしよう」

11月1日（土） 午前10時30分～午後3時30分

アトリエ2にて 要事前申込

要参加費（定員30名、小中学生とその保護者）

お問い合わせ・お申込み：こどものイベント係 TEL 078-262-0908

おやこ解説会

11月15日（土） 午後1時30分～（約30分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員先着100名）

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

同時開催の展覧会

県美プレミアム

〈小企画〉美術の中のかたち—手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

〈特集展示〉鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて

7月19日（土）～11月9日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

〈小企画・特集展示〉

阪神・淡路大震災から20年（仮題）

11月22日（土）～2015年3月8日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

チャンネル5 木藤純子展

12月6日（土）～12月22日（月）

会場：兵庫県立美術館 アトリエ1・館内各所

横尾忠則現代美術館での同時開催

阪神・淡路大震災20年展

記憶の遠近術～篠山紀信、横尾忠則を撮る

10月11日（土）～2015年1月4日（日）

※特別展又は、県美プレミアムの有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

（詳細はホームページなどでご確認ください）

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

※画像番号 **10・11** の使用につきましては、別途、著作権使用承諾の申請・著作権使用料が必要となります。

使用料規程に関して

<http://www.bunka.go.jp/ejigyuu/pdf/02017-kite.pdf>

一般社団法人 日本美術著作権協会

〒104-0061 東京都中央区銀座3丁目10番19号 美術家会館604号室

TEL: 03-6226-5951 FAX: 03-6226-5952

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

<http://www.damashie2.com> (本展公式サイト)

企画内容に関すること

担当学芸員: 速水豊・岡本弘毅

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

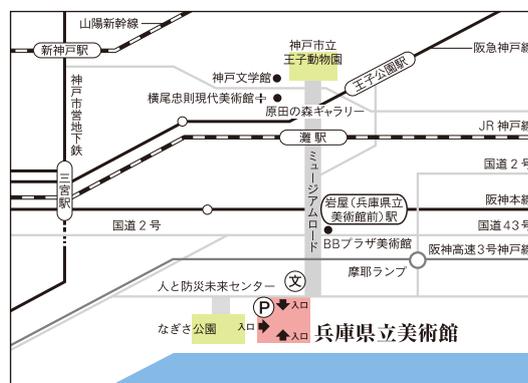
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

| 番号 | 作家名・作品名・制作年・所蔵 他 |
|------------|--|
| 1 | ジュゼッペ・アルチンボルド 《司書》 1566 年頃 スコークロステル城 (スウェーデン) Photo: Samuel Uhrdin |
| 2 | クリストフェル・ピアソン 《鷹狩道具のある壁龕》 1660 年代 (推定) ワシントン・ナショナル・ギャラリー Courtesy National Gallery of Art, Washington |
| 3 | カズ・オオシロ 《フェンダー・デラックス・リヴァーブ・アンプ 2》 2009 年 Courtesy of the Artist and Galerie Perrotin |
| 4 | ヴィック・ムニーズ 《「裏面」 シリーズ、星月夜》 2008 年 作家蔵 ©vikmuniz, courtesy Sikkema, Jenkins & Co. |
| 5 | 福田繁雄 《アンダーランド・ピアノ》 1984 年 広島市現代美術館 |
| 6 | ラリー・ケイガン 《トカゲ》 2008 年 トニー&リンダ・ブルーム・コレクション ©Larry Kagan, courtesy of Hirschl & Adler Modern, New York |
| 7 | パトリック・ヒューズ 《広重とヒューズ》 2013 年 作家蔵 ©Patrick Hughes, courtesy Flowers Gallery, London / New York |
| 8 | エヴァン・ペニー 《引き伸ばされた女 #2》 2011 年 ©Evan Penny, courtesy Sperone Westwater, New York |
| 9 | ヴィック・ムニーズ 《自画像 悲しすぎて話せない パス・ヤン・アデルによる》 2003 年 タグチ・アートコレクション ©vikmuniz |
| 10 (申請) | サルバドール・ダリ 《海辺に出現した顔と果物鉢の幻影》 1938 年 ワズワース・アテネウム美術館 Photo SCALA, Florence 2014 ©Salvador Dali, Fundació Gala-Salvador Dali, JASPAR Tokyo, 2014 許諾番号 |
| 11 (申請) | ルネ・マグリット 《赤いモデル》 1953 年 BNP パリバ・フォルティス銀行 Photo: Serge Verheylewegen ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2014 許諾番号 |

※上記画像を媒体掲載されるときには、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。

※トリミングおよび文字や他のイメージを重ねることはできません。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

※画像番号 10・11 の使用につきましては、別途、著作権使用承諾の申請・著作権使用料が必要となります。

| | | | |
|--|----------------|---------|------|
| 貴社名 | | | |
| 媒体名 | 新聞・雑誌・ミニコミ | 『 | 』 |
| | TV・ラジオ・インターネット | | |
| ご担当者名 | | | |
| ご住所 | 〒 | | |
| 電話番号 | | FAX | |
| メールアドレス | @ | | |
| URL | | | |
| 掲載・放送予定日 | | 画像到着希望日 | |
| 読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り) | | 組 | 名分希望 |

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。